

美術館とマネージメント、政策と具体的現実
「アートに係る経済振興」予備会合のご案内

日 時：2018(平成30)年3月23日(金) 17時30分～19時(予定) ※20時閉館
会 場：国立新美術館 3階 講堂

国立新美術館は、美術館に関わる幾つかの課題について、関係者による議論、検討の場を提供する連続講演・シンポジウムを企画することとなりました。

その一環として、上掲のとおり、アートと経済に関する企画の検討に関して実施する予備会合について、アートと経済に関わる皆さままでご興味・ご関心のある方々に向け、限定的に公開させていただくことと致しました。

ご希望の方は下記宛、3月20日(火)迄にお申し込み下さい。間際のご案内となりますことをお詫び申し上げます。

お申込方法：下記URL先のお申し込みフォームをご利用下さい。

<https://goo.gl/forms/PJkhhJ0tv7IkeisD3>

お問い合わせ：okeda@nact.jp

※ 本件に関するお問合せは、表題に必ず「予備会合」との文字をご入力下さい。ご入力ない場合には、お答えできない場合がございます。

予備会合 進行 (案)

- 1 挨拶
青木 保 国立新美術館長
- 2 ディスカッション
石坂 泰章 株式会社 AKI ISHIZAKA 代表取締役
絹谷 健二 三井住友銀行成長産業クラスター業務開発グループ
上席部長代理
柴山 桂太 京都大学大学院人間・環境学研究科准教授
山梨絵美子 東京文化財研究所副所長
山本 豊津 東京画廊代表取締役、全国美術商連合会常務理事

進行：桶田大介 (国立新美術館参与、弁護士)

「アートに係る経済振興」企画概要

命題：日本におけるアートと文化創造・活動、美術館などの文化施設の発展的運営につき、問題点と解決方法、今後の方向性を探る

方法：テーマを設定、3テーマ、各3回～5回程度の連続講演会・シンポジウムを開催

1 テーマ案

- ① 何故、アート市場の活性化が必要なのか？
- ② 「文化芸術立国」実現に美術(館)が果たす役割
- ③ 美術館への時代と社会の新たな要請
- ④ 日本美術の価値創造を目指して

2 基本的な考え方

- ① 日本の国内アート市場の活性化・拡大は、日本経済の活性化という側面もあるが、日本国内で美術品が買われる量が増え、買う人の数が増えれば、その恩恵はアーティストにももたらされ、アーティストが日本国内で活動を持続し続けることを下支えすることになると同時に、日本国内に美術品を“残していく”ことにつながる。
- ② 国内アート市場の活性化・拡大の実現のためには、日本における美術品の再販価格 (Resale Value) が安定し、美術品の流動性が高まる必要があるが、その価値の担保 (安定機能) を担うのは実は美術館。日本のみならず、世界的にも市場の挑戦に揺らいでいる“批評”を支えるうえで、美術館、アート・ライブラリー、アート・アーカイブの果たすべき社会的役割・機能は大きな意味を持ちうる。
- ③ 美術品は「商品」という一面を持ちながら、その価値は、モノとしての価値(だけ)ではなく、その歴史的認識 (位置付け) やモノに付随するストーリー (言説) に価値がある、という極めて特殊な商品。現代におけるストーリーは、国内的事情に留まるのではなく、国際的に広く理解されうるものであることが必要。よって、日本美術の価値向上には、日本美術に関する“国際的な”価値を上げ、維持することが重要。日本美術の国際的な価値が向上・維持されれば、日本美術が動産資産、金融商品として、日本国民の将来に渡る資産となりうる。日本美術の振興が今後の日本に必要な不可欠な取り組みとなりうることを明らかにする。